

服の中にくるんで、大變な骨折りをしてやつと、上に持つて来て、大急ぎで、家へ歸りました。夫から、家へ連れて来ておつ母さんの床の中に入れて、いろ／＼手を盡して介抱した所が、まあ、どんなに辛な事でしたらう、漸くすると蘇生つた、そして細く兩方の目を開けて、一生懸命におつ母さんの顔を見つめて、

「おつ母さん、お藥が届きましたか？」

これが、春三が蘇生つて始めての言葉でありました。後で、だん／＼聞いて見ると、彼の時春三が崖に落ち込むと、「赤」はすぐ其後に飛び下りて來たので、春三は、やつとの事で、藥を手拭でシツカと頸に結び付けて、家に歸らせたのであつたといふ事です、所や顔や手足に怪我をしました上に、非常

の寒さの爲めに、一時死んで居たのですが、其傷は皆急所を外れて居ましたから、幸に蘇生つたのでありました。

和藤内遊び

おきな

これは、和藤内と、和藤内のおつ母さんと、虎との遊びであります。

先づ、真中に障を一枚立て、置いて、障の兩側に甲乙二人が隠れて居る。残りの人は、其二人を一時に見ることの出来る様に、障の真正面に立つて見て居る。そして二人が用意齊つたと見た時に、誰か一人真正面に居る人が、一二三と合圖をする。

其合圖に従つて、例へば甲の人は和藤内になつて

何か杖の様なものを振り上げて、虎を打ち殺すといふ身構ひで、そつと障に沿つて正面へ顯はれて来る、すると片側に在る乙は、和藤内のおつ母さんの積りで、杖をついて、よつち〜と歩いて来る、そして、互に正面の障の端の處まで来て、バツタリ出遭ふと、和藤内は負になる。

今度は甲が虎になつて、のそり〜と這ひ出てくる、そして、乙が、和藤内になつて、刀を振り上げてやつて来てバツタリ出合ふと、今度は虎が負けになる。

次に、甲は、おつ母さんになつて、乙は虎になつて出て来ると、おつ母さんが負ける。

この様に、三度續けて負けた所で、一勝負決るといふことになるのですが、この遊で、必要なことは、障子の陰に居る時に、對手は、今度何になる

十八
であらうかといふことを考へて出ることで、對手は屹度おつ母さんになつて出るなと思つた時は、自分は虎になつて出て行くといふ風にするのです、試みにやつて御覽なさい、中々、面白いのです。

勇ましい少女 (つゞき)

太田 龍東

それで、菊枝は玄關先の隅に刀を抜いて、今か今かと出て来るのを待つて居りますと、一人遣つて参りました。まさか自分を斬るやうな者が、待伏せしてゐやうとは思ひませんで、大きな柳行李を擔いで、重そうに暗い所を足探りしながら、酒の酔ひで上機嫌となり、獨り言を云つてゐます。「この行李は何が中にあるか知らねーが、馬鹿に重いや、ゲン、ドッコイ〜氣を附けねーと危